

病態生理学	橋 爪	洋	教授
Pathophysiology	川 邊	哲 也	教授
	山 田	忍	教授
1 年次後期・がん看護専門看護師コース必修	徳 原	大 介	教授
2 単位・30 時間	上 松	右 二	非常勤講師
	上 田	弘 樹	非常勤講師

【概要・目標】

看護の臨床に必要な病態生理学の理解をより深めることによって、高度実践をおこなうための知識と科学的根拠を習得し看護援助の発展につなげる。

身体の構造・機能、疾患とその病態・生理の成り立ちについての知識をもとに、各領域での代表的な疾患を取りあげ、その病因・症状・診断・治療について、必要な知識と看護への理解を深める。病態生理学を基盤にアセスメントし、根拠を明確にしながら、看護介入を行える能力を身につける。

【授業内容・スケジュール】

【講義内容】看護実践で必要となる病態・生理現象を取り上げ、その成り立ちを理解する。1～5 回で総論的内容、6～13 回で代表的な疾患の病態生理について理解する。

1. 呼吸と酸塩基平衡（講義：徳原）
2. 腎・塩と水のバランス（講義：徳原）
3. 炎症症状と免疫反応（講義：橋爪）
4. 栄養と代謝（異化と同化反応）（講義：徳原）
5. ホルモン作用（講義：橋爪）
6. 各論 1：呼吸器疾患とその病態生理（講義：徳原）
7. 各論 2：消化器疾患とその病態生理（講義：川邊）
8. 各論 3：神経疾患とその病態生理 1（講義：上松）
9. 各論 4：神経疾患とその病態生理 2（講義：上松）
10. 各論 5：腎疾患とその病態生理（講義：徳原）
11. 各論 6：循環器疾患とその病態生理（講義：川邊）
12. 各論 7：腫瘍循環器病学①ーがん治療による心血管合併症（講義：上田）
13. 各論 8：腫瘍循環器病学②ーがん種に関連する心血管合併症（講義：上田）
- 14-15. 学生に事前学習として、がん患者の 1 事例を挙げ、学生はこれまでの学びを基に、がん患者の 1 事例を挙げ、がん患者特有の原疾患に起因した症状とその発生機序をアセスメントしディスカッションする。そして、対症療法と有効な看護介入についてのプレゼンテーションを行いディスカッションする（演習・山田）

【評価】

- ・授業の事前準備（20%）
- ・出席（20%）とその都度の課題レポート（20%）&プレゼンテーション（20%）によって行う。
- ・最後の演習でディスカッションした事例に関して、更に学びを深めた、有効な看護介入についてのレポート：課題レポート（20%）

※評価責任者 山田教授

【推薦参考図書】

必要に応じて提示する

【その他】講義は事前学習を前提に進行し、事後のレポートの提出も必須とする。